

教育支援訪問システムの事例報告

——平成22年度の取組みから——

西田 治（長崎大学教育学部 初等教育講座）

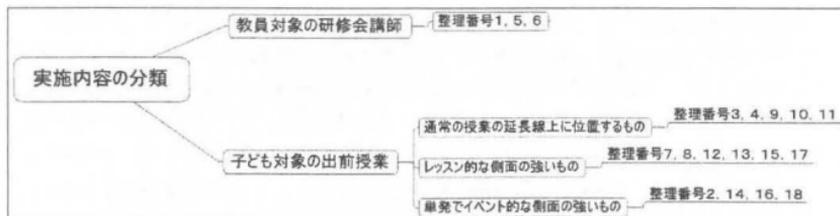
1. はじめに

本稿は、筆者個人が平成22年度に実施した教育支援訪問システムの活用事例をまとめたものである。同システムは、長崎大学教育学部の教員が県内各地を訪問し、地域の教育活動を支援するものである。筆者は、平成20年度は2件、平成21年度は11件、平成22年度は18件の依頼を受けている。本稿では、平成22年度の18件についてその概要を報告するものである。尚、本報告は、あくまでも筆者個人の活動に基づくものであり、教育支援訪問システムの全体的な傾向を示すものではない。

2. 実施内容の分類

実施内容については、本稿末に掲載している【図表3】平成22年度 教育支援訪問システム 実施一覧をご参照いただきたい。18件の事例は、その内容から「教員対象の研修会の講師」と「筆者が子どもたちに直接授業を行う出前授業」の二つに分類することができる。また、後者の出前授業については、その授業内容によってさらに3つに分類できる。表にまとめると以下の【図表1】のようになる。

【図表1】



「子ども対象の出前授業」について説明を加えたい。一つ目「通常の授業の延長線上に位置するもの」は、年間指導計画の流れに沿った内容を担任教諭に代わって筆者が授業をさせ

て頂くものである。整理番号3、4は、音楽づくり（創作）の授業であり、整理番号9、10、11は、リコーダー及び鍵盤ハーモニカの導入指導である。いずれも指導内容・方法のアイデアの提供という意味合いが強い。ある題材の導入部分、あるいは一部分のみを筆者が担当する形になるため、担任教諭との事前打ち合わせが密に必要となる。

二つ目の「レッス的な側面の強いもの」は、発表会に向けて合奏や合唱をよりきれいに仕上げることを主目的とした授業である。美しい発声の方法、強弱の工夫、合奏のまとめ方（テンポをいかにそろえるか、タイミングをいかにそろえるか、メロディーと伴奏のバランス）などが主な指導内容である。特に器楽合奏の場合は、「個々人は演奏できているが、なかなか全体で揃わない（きれいに響かない）。どうしたらよいか。」という悩みが多く聞かれた。その多くは、テンポ感の共有ができていない、あるいは、お互いの音を聴いていない、というところに原因が見られた。リトミックの活動を取り入れたり、お互いの音を聴き合う活動を仕組むことで解決できる場合が多かった。その一方、合唱指導の発声については、一朝一夕に変わるものではなく、短時間（1～2時間）の指導では、なかなか改善に至るまでは難しく、力になれない部分も多々あった。各学校共に事前に「こういう部分が困っている、改善したい」という項目を挙げてもらい、それをもとに、ある程度、手立てを用意していくものの、当日、子どもたちの演奏を聴いて授業内容を変更することも多かった。

三つ目の「単発でイベント的な側面の強いもの」は、ドラムサークルや音あそびといった内容のもので、学級や学年が交流するためのレクリエーションとして、あるいは、学校に保護者を招いての交流会などの場面で実施してきた。音楽教育的な意図は薄く、共に音楽を楽しむこと、音楽で交流することを目的とする場合が多い。日頃学校ではなかなか触れないような楽器（ジェンベやトーンチャイムなど）を用いることも特色の一つである。

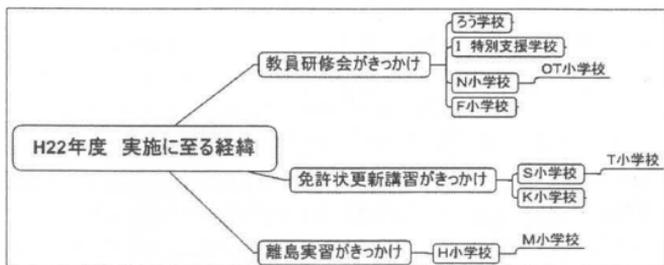
以上のように、出前授業はその授業内容から以上のように3つに区分できる。しかし、レッス的な側面、イベント的な側面が強いものも、根本的な部分では通常の授業の延長線上に位置するものであることも付記しておきたい。

3. 実施に至る経緯

教育支援訪問システムは、各学校から依頼を受けて訪問することになるが、その訪問依頼を受けるに至る経緯について整理したい。筆者は、4年前に長崎大学に着任したが、当時は、全く知り合いのいない状況からのスタートであったため、教育支援訪問システムの依頼ももちろんなかった。そのような中で、少しずつ現場の先生方とつながりができ、今年度の18件に至っている。依頼を受けるきっかけを整理すると【図表2】のようになる。今年度実施分については、教員研修会をきっかけとするものが多かった。特に、長崎県音楽教育研究会（長崎県音研）主催で実施した二回の研修会の影響は大きかった。また、依頼を受け実施した小学校から紹介を受けて依頼をされるというケースも3事例ほどあった（OT小学校、T小学校、M小学校）。

昨年度（平成21年度）は、筆者が「諫早市こどもの城」で行う「音楽コミュニケーション」というワークショップがきっかけで、各小学校への訪問依頼が多かった。年度によってそのきっかけには特色がある。

【図表2】



4. 今年度の特徴

昨年度までの依頼は、教員対象の研修会、子ども対象の出前授業のいずれも小学校の通常学級を対象とするものだった。それに対し今年度は、特別支援学校（学級）、ろう学校からの依頼が加わった。筆者にとって、障害を持つ子どもとのかかわりは初めてのことだったが、いずれの学校においても音楽の素晴らしさを共有できる豊かな時間であった。これからは、障害を持つ子どもたちとの活動も積極的に行っていきたい。

5. 出前授業の難しさ／魅力と利点

子どもたちの日常に飛び込ませてもらう出前授業には、特有の難しさや利点があると考えられる。筆者自身が感じる一番の難しさとしては、子どもの実態把握が難しいことが挙げられる。出前授業を行う際には、事前打ち合わせで、担任教諭から子どもたちの様子を聞いたり、活動の様子のVTRを見るなどして、子どもの実態把握に努めるが、やはり会ったことのない子どもたちの実態を正確につかむことは難しい。それ故、実際の授業が始まってから即興的に対応し、授業の進め方を変更する場合も少なからずあった。イベント的な側面の強い出前授業の場合は、実態把握に多少ズレがあっても柔軟に対応できるが、通常の授業の延長線上にある授業を担当する際には、そのズレを修正し対応していくことが難しい場面もあった。しかし、子どもの実態を把握する、ということは出前授業にかかわらず日々子どもたちと向き合う先生方にとっても難しいことであるのかもしれない。

また、子どもの実態把握が十分に行えないことが、逆に良い影響をもたらすこともある。子どもの実態把握でできてしまう先入観がないため、子どもたちの新しい側面を引き出すことができる場合があるからだ。出前授業終了後に担任の先生から「〇〇くんのあのような表情は初めて見た」「□□さんがあのような素晴らしい発言をするとは思わなかった」という趣旨の感想をいただくことがあったが、いずれも筆者自身に先入観がなかったために引き出したのではないかと、僥越ながら考える。また、「子どもたちがいつもと違う表情を見せて

いた」という感想は一番多く頂くものだが、担任教諭でもなく、その学校の教員でもない第3者が授業をすることで、子どもたちの新たな側面を引き出すことができるのも出前授業の利点・良さだろう。第3者としてうかがう筆者は、非日常であるがゆえに子どもたちから非常にもてはやしてもらえることも嬉しい特典である。

出前授業の魅力と利点は他にもある。その一つとしてあげられるのが、現場の先生方と共に授業をつくり共に実践できることである。今年度の例で言うとS小学校の事例が最もそのことを端的に示している。S小学校の事例は、音楽科と国語科を連携させた創作の授業である。音楽科の部分は筆者が、国語科の部分は担任教諭が、それぞれに担当するため、授業のねらいや指導内容・方法の検討など、幾度となく意見を交換しながらの取組みとなった。この事例への取組みを通して、小学校教員と大学教員のそれぞれの強みを生かした授業づくりの魅力と可能性を実感することができた。小学校教員と大学教員の強みは異なり、経験もまた異なる。それらの違いを生かした魅力ある授業づくりを今後も模索していきたいと思える取組みであった。

また出前授業の魅力は何よりも子どもたちと直に触れ合えることだと考える。子どもたちと実際に音楽活動することで得られるものは、他では得難いものである。そして、授業終了後には、どの学校からも手紙やビデオレターをいただく。「以前よりも音楽が好きになった」「もっと音楽が好きになった」という子どもたちの感想は、次の出前授業の原動力ともなっている。また、出前授業がきっかけで、子どもたちの創った詩に筆者が音楽をつけて、オリジナルソングをつくる活動も昨年度から開始した。これは出前授業を通して出会った子どもたちの鋭敏な感性に筆者が触発されて始めたものである。筆者自身、作曲は専門ではないが、子どもたちの言葉にメロディーをつけていく活動は今後も行っていきたいと考えている。本稿末の【楽譜1】を参照。

6. おわりに

以上で今年度の教育支援訪問システム18件の実施報告を終える。筆者の事例は、出前授業を中心としたものになっているが、これは、筆者自身が子どもと共に音楽することが好きであること、自身の研究成果を還元するのに最適な形であることが理由として挙げられる。しかしながら、いつも肝に銘じているのは、出前授業は子どもたちの日常に非日常を持ちこむことであり、毒にも薬にもなるということである。安易な出前授業で子どもたちの授業の進行を害することが無いようこれからも十分に配慮して取り組んでいきたい。また、出前授業は、毎回が大成功で終わるわけではなく、自分の無力さを感じる場面も多々あった。全てを糧にこれからも現場に出る機会を大切にしたい。

本稿を閉じるにあたり、今年度、筆者に出前授業と教員研修会の機会をくださった先生方と出会った子どもたちに心から感謝したい。日々、子どもたちと真摯に向き合う現場の先生方からは本当に多くのことを教えて頂いた。また、出会った子どもたちからは筆者自身が改めて音楽の素晴らしさを教えてもらうことも多々あった。今後も現場の先生方と子どもたちの力になれるよう日々研鑽を積んでいきたい。

【表3】平成22年度 教育支援訪問システム 実施一覧

整理番号	学校名 団体名	実施日	内容	対象 人数	実施 時間
1	長崎県 音楽教育 研究会 特別支援 学校部会	H22.8.2	○長崎県音楽研究会 特別支援学校部会 夏季実技研修会 ○講演タイトル: 療法的音楽活動 —音楽教育と音楽療法のはざまにあるもの— ○午前は、音楽療法の概要に関する座学を中心に、 午後は、活動事例の紹介として、音楽療法で用いら れる音あそびやドラムサークル、トーンチャイム合奏 などを行った。	約150人	5時間
2	S小学校	H22.7.5	○小学校4年生への出前授業 ○内容:ドラムサークル ○1クラス45分でドラムの即興演奏であるドラムサー クルを実施した。	約30名	1時間
3	S小学校	H22.7.7	○小学校4年生への出前授業 ○学習テーマ:「水を感じよう」 ○「水」をテーマとした音楽づくりの活動の前半部分を 実施。	約30名	3時間
4	S小学校	H22.7.13	○小学校4年生への出前授業 ○学習テーマ「水を感じて表現しよう」 ○「水」をテーマとした音楽づくりの活動の後半部分を 実施。	約30名	2時間
5	T小学校	H22.8.20	○校内研修会 ○講演タイトル: 「感じる力、表現する力を高める学習とは」 ○音楽づくり及び教科の枠を超えた連携(音楽科と国 語科)の実践事例紹介。整理番号3、4で実施した内 容の紹介。	約30名	2時間
6	長崎県 音楽教育 研究会 小学校 部会	H22.8.4	長崎県音楽研究会 小学校部会 夏季実技研修会 ○講演タイトル:「学級担任のための楽しい音楽の授 業! —新学習指導要領を踏まえて—」 ○音楽専科の教員のための研修ではなく、学級担任 のための実技研修会にしてほしいとの依頼で、歌 唱、器楽、音楽づくり、鑑賞の4領域全ての指導法に ついての座学と実技で内容を構成した。	約200名	5時間

7	M小学校	H22.8.27	○金管バンド演奏指導・支援、教員への講義・指導 ○金管バンド部に所属する子どもたちへの実技レッスンを2時間。その後、指導者の先生方と指導法に関する意見交換会を1時間実施した。	約30名	3時間
8	H小学校	H22.10.24 ～10.27	○小学校1～6年生への出前授業 ○内容:学習発表会に向けた音楽指導 ○離島実習の受入校となっている学校への教育支援。全校合唱、器楽合奏、歌唱指導、リズムあそびなど幅広く指導をさせて頂いた。	約31名	10時間 程度
9	H小学校	H22.9.17	○1・2年複式学級、3・4年複式学級での出前授業 ○1・2年生対象:鍵盤ハーモニカ導入指導 および 器楽合奏指導 ○3・4年生対象:リコーダー導入指導 および 器楽合奏指導	約32名	2時間
10	ろう学校	H22.9.22	○出前授業 ○中高学年対象:リコーダー指導 ○全学年対象:リズムあそび・音あそび	約5名	2時間
11	K小学校	H22.10.5・ 6	○1年生及び3年生への出前授業 ○1年生対象:鍵盤ハーモニカ導入指導(1時間×5クラス) ○3学年対象:リコーダー導入指導(1時間×4クラス) *リコーダーについては、2クラス合同で計2時間実施した。	約150名	7時間
12	S小学校	H22.10.13	○4年生対象の出前授業 ○ボディ・パーカッション指導及び合唱指導	約30名	1時間
13	N小学校	H22.10.18	○学習発表会に向けて4年生への合奏・合唱指導 ○12/8拍子の指導。楽譜に指定されている楽器がない場合の代替楽器の提案なども行った。	約150名	2時間
14	F小学校	H22.12.1	○音楽の指導、自立(コミュニケーション)の指導 ○特別支援学級の交流会。全学年合同、保護者の方にも参加して頂いての音あそび。	約20名	2時間
15	OT小学校	H22.11.2	○学習発表会に向けた3・4年生の合奏・合唱指導	約50名	1時間
16	I 特別支援学校	H22.11.24	○「中学部集会」での音あそび ○交流会での音あそび。各種打楽器、トーンチャイムを使ってコミュニケーションを促すような活動を行った。ドラムサークルも実施。	約30名	2時間

17	S小学校	H22.11.10	O4年生対象の出前授業。合唱及びボディ・パーカッション指導 O学習発表会へ向けての音楽指導	約30名	1時間
18	S小学校	H23.2.9	O全校音楽学習会でのボディ・パーカッション指導(1時間) O4年生対象の歌唱指導(1時間)	約200名	2時間

【写真1】

大学生が模範演奏する映像を見る子どもたち

大学生の演奏を録画したものを鑑賞材として子どもに提供。大学生にとっては子どもたちの役に立てる喜びが、子どもは画面の中の大学生に親近感を持ちながらも憧れを持つ。相互にいい影響が見られた。ボディ・パーカッションの曲は、模範演奏がないものが多いため今後も続けていきたい活動の一つである。



【写真2】

ボディ・パーカッション

ボディ・パーカッションは、全身で音楽表現する楽しさを味わうのに最適であり、男子児童からも人気のある活動。写真は、教師の模倣をしようとする児童の様子。



【写真3】

プールで水の音がし

「水をたたく音は本当に
「バシヤン」なのかな？」
既存の擬音語にとらわれず
に音を聴くことを意図した活
動。水を打ちならして音を確認
しようとする児童の様子。



【写真4】

鍵盤ハーモニカ導入指導

筆者が継続して研究して
いる導入段階の指導法の実
践。器楽学習は、導入期にい
かに楽しみながら基礎力を
身につけるかが、その後の学
習を大きく左右すると考え
ている。



【写真5】

音あそびの様子

活動の始まりは太鼓で挨拶
をすることから。楽器を媒介と
することで言葉だけのやり取
りよりもスムーズにコミュニ
ケーションできる場合が多い。



【感想2】

リコーダー導入指導を行った際
に頂いた感想。
(担任の先生から)

子ども達へのリコーダー指導ありがとうございました。
どの子ども生き生きと学習に取り組むことができていました。先生
のように上手にリコーダーが吹けたらという思いから、学習意欲
が増した子どもたくさんいたようです。

指導者の見ても、見習いたい点が多数ありました。『右手を挙げて
舵じいさん』を用いての吹き姿勢を身につけさせたり、手虎ゼ
防止をしたりするのは、すぐにも使わせていただこうと思いま
した。また、数を利用しての吹き方の指導、身振りを使っの
リズムの取り方なども、ぜひ真似したいと思います。

教科書や指導書(今の教育現場には、自分の知識や技能をあげ
る教材研究や現職教育の時間が無いので、ざっとしているのです
が…)を読んで現在指導にあたっているのですが、実技系の教科
指導にはたいへん苦労します。今回のような教育支援をしていた
だと、子ども達の関心・意欲・技能が良くなるだけでなく、わ
たし達教育者の技能向上にも繋がります。

この度は、ご指導ありがとうございました。また、機会があり
ましたら、歌や合奏などの学年に応じた指導を、よろしく願ひ
いたします。

本日お礼ありがとうございました。

リコーダーの導入は色々とやり方があると思う
のですが、今回の活動はどれも斬新で素晴らしい
です。生徒たちも初対面の方と関わるとの素直な
見せ方などは、活動も充実ぶりから改めて感
謝したいと思います。今後何か色々と指導
して子どもたちの笑顔を引き出してほしいと思
います。機会があれば、御一緒の活動もできると
思います。お礼ありがとうございました。

【感想3】

特別支援学校における音
あそびの活動に対して頂
いた感想。

今回はお忙しい中、本校に足を運んでいただき、ありがとうございました。

手さし音で楽しむことができ、どの生徒の顔にも笑顔が自然とこぼれ、
あたがい雰囲気でも最後まで楽しめられました。

心や身体に困難をかかえ、自分から発信することに自信がなかったり、抵抗が
ある生徒も、撃鼓という道具を介して人との関わり、人とのやりとり。そして
人とのつながりができる!! でした!! という気持ちで味わうことができたのではないと思
います。

そして私は自分の心を解放したり、リズムの身体をリズムでリズムと
自分の身体で楽しむことができたことを感じました。

音楽の力は心と心を感じてほしいと思います。

ぜひまた来校して生徒たちに勇気や成長を与えてほしいと思います。
本当にありがとうございました。

【感想4】

同上。

いのち

作詞:高瀬 麟太郎 / 西田 治
作曲:西田 治

いのちってふしぎだ

いのちってふしぎだ ひとつひとつちがうからーいのち

ちってふしぎだ だっていつか見えるからーひと

みんないのちを 守っているいのち

みんないのちをか んじようひとつひとついのちが たい

せーつだーってーきつはるよーにー

いのち

高瀬 麟太郎
西田 治

いのちって不思議だ
ひとつひとつ違うから
いのちって不思議だ
だっていつか消えるから
人も動物も虫も花も
みんないのちを持って
いるみんないのちを感じよう
ひとつひとつのいのちが
大切だって
気づけるように

【感想1】教員研修会のアンケートから

平成22年度 第14回 長崎県音楽教育研究会 特別支援学校部会

夏季研修会 アンケート

- (1) 今回の研修会について御意見をお聞かせください。
- 具体的に指導の様子をDVDを見せていただき、私たちも体験して見て、とても身になる研修だった。
 - いろいろな楽器に実際に触れることができてよかった。
 - 身体全体でリズムを感じ、また一人一人の色々なリズムがハーモニーになっていくのが素敵だった。子どもたち一人一人のリズムを心地良い音にしていきたいと思った。
 - 午前中のビデオを見て、音楽の力はすごいと思った。周囲と関係が持てなかった子が20数回のレッスンで音楽を通したやり取りができるようになっていく姿は参考になるものがあった。
 - 研修の時間がとても短く感じられた。それだけ、研修の内容の構成も良く楽しかった。自分の授業の反省とこれからの意欲付けになりました。音楽の力ですごいと思った。
 - 内容が充実していて良かった。楽器を使ってこんなに楽しい音楽が楽しめることが分かり、今後授業の中で取り入れたい。
 - 打楽器の使い方、取り入れ方について、改めて考えさせられ気づかされる良い機会になった。若い講師の先生でしたが、その分新鮮でパワフルでかつ優しく良い研修だった。
 - 実際にいろいろな楽器に触れたり、ドラムサークルをしたり等、楽しく研修に参加できた。参考にしたい。
 - 子どもたちと一緒にやってみたいと思う活動が沢山あった。音楽を通してのコミュニケーションにチャレンジしてみたいと思った。
 - 技術的に難しい楽器の演奏が、リズムで音楽を楽しんだり、療法したりできるという実践を取り入れた内容もあり、初めて参加したがとても参考になった。
 - 西田先生の人柄から学ばせていただくことが多くあった。説明も資料も分かりやすく、音楽のことに詳しくなくても緊張せずに講義を受けることができた。日ごろ取り組まれている実践や楽譜の紹介などもしていただきありがたかった。
 - 音の楽しみ方をいろいろ紹介していただき、とても参考になった。特に合奏のリズムを合わせる方法は「なるほど、そこが大切なんだ」と思うことがよく分かった。すぐ使えそうだった。
 - 西田先生のお話もとてもよかった。音楽って素晴らしいなと改めて感じた。西田先生は素敵なお方でした。こどもの城に行きたくくなりました。
 - 音楽療法は普通の学校にも、もっと広げていくことが大切だと思う。それで、教わる子どもが増えると思う。
 - 時間が足りなかった。グループトークより、もっと話が聞きたかった。
 - 体験的な活動が多くとても分かりやすく、参考になることが多かった。来年もまた西田先生に来ていただきもっと話を聞いてみたい。音楽の楽しさ、子どものリズムに合わせる大切さが分かった。
 - 講師の先生の話し方やひきつけ方がとても上手で、それも参考になった。
 - すぐにも子どもたちとやってみたい内容ばかりだったが、いろいろな楽器が学校にはないので、どの学校にもある楽器を使っていることが知りたい。
 - 音楽の苦手な私が音楽を楽しむことができた。音楽(音)に癒された。「コミュニケーション」としての音楽を体験できた。
 - 音楽の楽しさ、心地よさを実感できた。その場にいたみんなと心を合わせ、穏やかな気持ちや達成感を共有できる様々な活動を紹介していただき、早速実践したいものばかりだった。
 - 大変勉強になりました。ありがとうございました。
 - 音を楽しむということを体感した。打楽器を使って上手にリズム感を育てる、音色によって心が癒される、子どもの五感に響かせることがとても大切だと思った。
 - 身体のハンディや知的なハンディや人と合わせることのむずかしさを抱える子どもたちと学習をしている。そのみんなを丸ごと取り込んだ活動ができるといいなと感じた。
 - ドラムサークルではテンポを意識してははずすとしても、周りのリズムに引き込まれははずすことができなかった。とても取り入れた音楽活動だと思った。
 - トーンチャイムの音、ハーモニーが大変美しかった。久しぶりに心の洗われる研修会だった。一人一人を一人一人の音を大事にすることの大切さを学んだ。2学期でのクラスでの音楽活動には是非生かしていきたいと思った。